



2015年度

# マどもニュース

No. 21

2016. 1. 29 発行

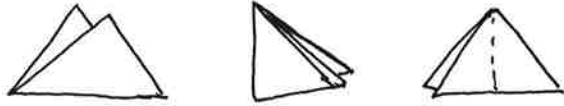
金城学院幼稚園

今、園庭南側の枇杷の木に、白くてとっても地味な、でも上品な香りを漂わせる花が咲いています。よく見なければ誰にも気づかれないこの花が私は大好きです。残念なことに今年は気候の影響を受けてか、花の付き具合があまり良くありません。“誰のためでもない、自分は自分で精いっぱい役割を果たすことを神様は喜んでくださり、実を結ばせて下さる。” 白い花を見つめながらそんなことを感じ、勇気を貰いました。

さて、温かい年末年始に少し拍子抜けしたものの、インフルエンザA型の到来、大雪警報で休園になったり、軒下のメダカの水槽まで凍ってしまった寒い日が続いたり、戸惑うことがいっぱいでした。そのような中でも子どもたちは友達と、時を惜しむかの如く遊びに夢中です。いつも通りの遊びを楽しみながらも、“いっしょにあそぼうの日”におうちの方を招き、いっしょに過ごせることを心待ちにしています。園庭でも、室内でも、身体と頭と廃材や道具を使ってアイデアいっぱい、創造力と想像力に驚かされる遊びに溢れています。こんなに充実した遊びが幼稚園中で繰り広げられるのも、入園や進級からの日々の積み重ねの賜物であることを忘れてはなりません。見様見真似で始めてみた遊び、思うように出来ずかんしゃくを起こし、友達には出来るのに何故自分にはうまくいかないのかと悔し泣きをしたこと、出来なかったことが出来るようになり達成感と嬉しさを味わったこと、友達や先生に褒めてもらえて嬉しかったこと、いつも自分を理解してくれると思っていた友達の気持ちと、すれ違って悲しかったこと・・・数えきれない経験が今の遊びの充実感を与えてくれたに違いありません。そして、今も新たな取り組みや葛藤やすれ違い。こうして、これからも、もっともっと大きくなるみんなの心と身体。このような成長を、「いっしょにあそぼうの日」を通して感じて頂ければ幸いです。

馬淵 宣子

## おりがみ⇒⇒⇒

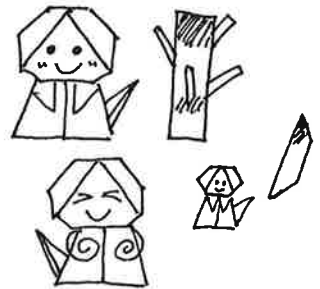


子ども達にとって身近な素材、折り紙。はじめはクチャクチャと丸めて、アイスクリームやキャンディー、おにぎり etc. に姿を変えて、ままごと遊びの大切なアイテムになっていることが多くあります。子ども達にとっては見立てるために欠かせない素材です。

しばらくすると、丸めるだけで終わっていた折り紙を三角や四角に折りたたんで、ハサミをいれて切り紙遊びへ。思わぬ出来上がり「わああ〜」という声があがります。また“全く同じものが出来ない”というのが、切り紙遊びのおもしろさ。どんな風に折ると良いか、ハサミの切り込み方もどうするか色々、試しています。友だち同士で見せ合いながら、どんな風に出来たかを見せ合い、互いの折り方や切り方を教えあっています。年長児は鉛筆で線を書き、より細かな模様を切り出そうとチャレンジ。そんな姿を見て、真似ようとする年中児・年少児もいました。

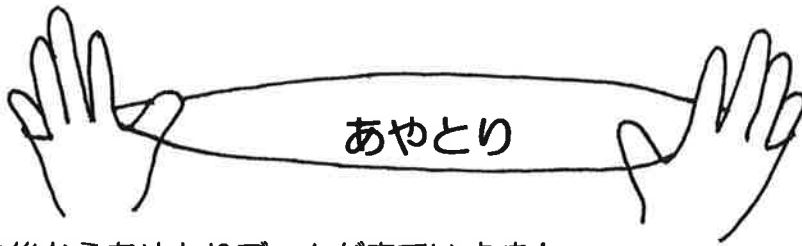
そして今、子ども達は折り紙本来の楽しさに出会っています。折り紙を繰り返して楽しんできた子ども達が中心になって、折り方の本を見ながら子ども達のみで、作り上げることが出来るようになってきました。本を見ながら互いに教え合い、時に試行錯誤することも楽しみ、出来上がったその瞬間の達成感や喜びを味わっているように感じます。

つい先日のことです。“サルの折り方”を基にして作り上げた一匹のサルに“クッキー”と名前がつけました。その後一匹、二匹、三匹・・・サルは増え、ミニチュアの家作りへと遊びが広がっていきました。その過程では、友だち同士でどうするかを相談することで互いに刺激を受け、育ち合っている姿を目の当たりにしました。



また折り紙で作った鬼の顔に手や足をつけたトイレットペーパーの芯を貼り、トラ柄のパンツを穿かせ、最後に金棒を持たせて鬼の完成！年長児が作り始めた鬼を見て、「わたしも作ってみたい」「ぼくもやってみる」と何人もの子ども達が作りました。その鬼を飾ってみたり、片手に持って追いかけてこのように遊んでみたり、折り紙で折ったものがきっかけとなって様々な方向に遊びが広がる様子から、子ども達の遊びが無限に広がる可能性を垣間見ることが出来ました。

日本語の“折り紙”という言葉は、世界に浸透し、欧米はじめ多くの国で“origami”として通用しています。他にも芸術的側面が評価されていたり、折り紙の持つ幾何学的な性質から数学の一分野としても研究されていたり奥深い遊びです。子ども達と一緒にその世界を楽しんでみるのは如何でしょうか。脳も心も活性化されて良いかも。



観劇の後からあやとりブームが来ています！

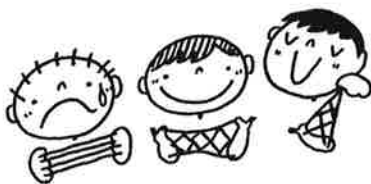
今年の観劇の第1部が身体をつかった「おどろあそび」でした。そのなか  
に、なが〜い紐を使ってあやとりをする場面がありました。翌日「あやとり  
できるよ〜」と毛糸を持ってきた子どもがおり、「お正月におばあちゃんちで  
やったよ」「おかあさんもできるよ」とやったことのある子どもたちも一緒  
になって、一人あやとりや二人あやとりを楽しんでいます。自分のあやとりが  
ほしい！と毛糸の長さを測って切り、結ぶ経験もしました。

子どもたちのあやとりは独創的☆偶然できた形をいろいろなものに見立て  
て、「みて！ツリーできた」「これはお山」「トンネルにも見えるねえ」と楽し  
んでいます。“ほうき”や“かわ”“はしご”などに挑戦し、何度もできるま  
で繰り返している子どもたちもいます。ある日「せんせい、こうするとね、  
からまらないよ！」と“はしご”の崩し方を教えてくれた子もいました。お  
うちの方に教えてもらったと、嬉しそうに話してくれました。なかにはお家  
で練習し、できるようになったことを見せてくれる子どもも(\*^^\*)一人  
あやとりをマスターしようと挑戦している子どももいますよ!!!

二人あやとりでは上手な子どもたちを中心に、あやとり塾が開かれていま  
した。どの指で、どの紐を、どの順番で・・・根気よく何度も何度も教えて  
くれていました。できた！を共感できる素敵な時間になっています。

おうちの方の中にも得意な方がみえるのでは？私も久しぶりにやりました  
が、“身体が覚えている”とはこういうことか！と実感しました。子どもたち  
と一緒にじっくり楽しんでいます。

あきこ。



③



## ミニチュアハウス



「ごめんくださ〜い。さくらちゃんいますか？」

「きょうはいっしょにゆうえんちいかない？」

「いいよ〜！くるまにのっていこ！」

と、楽しい会話を交わしながら遊んでいるのは、小さなお人形たち。

今、ゆり組には、たくさんのミニチュアハウスが並んでいます。折り紙などで作ったオリジナルの人形たちが住んでいるおうちが、所狭しと並んでいるのです。家だけではなく、お店屋さん、あんばんまん遊園地、コテージがあり、さながら街のようです。

じっくり観ていくと、サルの『りぼんちゃんのおうち』にはこたつがあり、りすの『ゆう君のおうち』にはリスが登れる木の遊び場があり、サルの『さくらちゃんのおうち』にはふかふかの干し草ベッドや、キッチン、ダイニングテーブルなど様々なものが作られています。クローゼットを作った子は、本当にかぶることのできる帽子や、着せることのできる洋服をつくり、その細かさにはびっくりです。

このようなミニチュアハウスの遊びは、今に始まったことではなく、ふり返ってみると、一学期からずっと続いている遊びでした。ある年長の女の子は、折り紙で何かを折る時、4分の1の大きさを作ってみたり、ときには9分の1の大きさを作っていました。小ささの限界に挑戦し、できたときの喜びを誇らしげに見せてくれたのです。そして小さく作った折り紙は小さな箱に集め、遊んでいたのです。粘土でクッキーを作ったときもそうでした。小さな小さなクッキーを作り、そこに付ける模様もとっても細かく作っていたのです。

そんなミニチュア作りがずっと続いていて、今は年中の子どもたちがミニチュア作りを楽しんでいます。指先がどんどん発達して器用になり、いろんなことができるようになりました。また、作るだけでなく、友だちと思いを交わしつつ一緒に楽しむ力がついてきたのでしょうかね。

「たのしかった！あしたもつづきしようね」

「あっ！きょうおべんとういっしょにたべよ！」

そんな会話と共に片付けている姿は、本当に楽しそうです。



④



◀ Chibza ▶

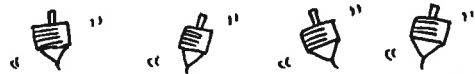


冬の寒さも本格的になっている中、お部屋では **こまブーム** が到来中です！

牛乳パックにペンで色を塗ったものに、  
穴を開けて爪楊枝を刺すと……

### 簡単手作りこまの完成！

様々な色を塗って、回してみれば  
「わあ、きれい！」という声が  
子どもたちから上がります。



ひつじ・ぶどうのお部屋では、**本物のこま**に挑戦する子どもたちがいます。

本物のこまを前に「どうやって遊ぶの？」「紐を巻くんだよね？」と、年少さんから年長さんまで興味津々。紐の巻き方を伝えると、「こう？」「合ってる？」と保育者に確認しながら巻いていきます。最初は紐が軸にぐるぐる巻きになっていた子どもたちも、何度も何度も遊んでいくうちにだんだん上手になってきました。

紐の巻き方をマスターしてくると、いよいよ投げる！

横向きに投げて、紐を引いて……。なかなか成功しないことに、子どもたちはやきもきしながらも「もう一回！」と諦めずにチャレンジを続けています。こま回しが成功すると、「できた！」「すごい！」と周りにいる子どもたちと一緒に飛び上らん勢いで喜びます。周りにいる子どもたちとハイタッチをするほどの喜びようです！



こま回しをきっかけに、教えあったり、成功したら一緒に喜んだり、とこれまであまり交流してこなかったお友達と関わる姿もあります。中には、そのままお昼ごはんの約束をしていることも。こまが友人関係を広げる一つのきっかけにもなっています。

実は、私も現在こま回しに挑戦中！

ところが、子どもたちの方がどんどん上手くなっていっています(笑)子どもたちにコツを教えてもらったり、「先生頑張れ！」と励まされたりしながら一緒にこま回しを楽しんでいます。

(ゆか)

# 影絵



ぶどう組の小部屋では“影絵”あそびが出ています。  
大きな白い紙の後ろから子ども達が人形を持ち、  
そこに懐中電灯の光を当て影を映し出すあそびです。

このあそびは 2学期後半から計画されていたもので、  
コツコツと紙人形作りから始まり、3学期に入り  
固定のあそび場所も決まり、ようやく上映に  
たどり着けました!!!



『これな〜んだ!?!』

「うさぎ?」 「イヌ?」

『ブザー。正解はキツネでしたー。』



きつね

と手で形を作り、それが何かをお客さんが  
当てるといふクイズ形式の劇?から始まり  
少レ寸劇も入れつつ、こじんまりと楽しんでいました。

けれども最近『いっしょにあそぼうの日』に沢山のお客さんが  
来る事を予想し(笑)せせっとチケット作りや劇の  
「ストーリー」作りをがんばっています!

ぜひ、観に来てください。お待ちしております ♡

(まお)

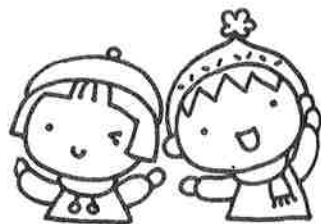
か  
げ  
え  
り  
ま  
。



(6)



## おもち屋さん



もちつきの翌日、おもち屋さんをして遊びました。

トロッコに満杯の砂を入れて、固めるために大きいスコップで“ぺったんぺったん”としていたところ、誰からともなく「おもちつきみたい」と言い出しました。

その場にいたのは、年中さん。♪もちつき♪の歌に合わせて、交代で“おもちつき”です。

おもちがつきあがると、お店屋さんを発展していきました。

まずは、おもちに味付けです。葉っぱを海苔に見立てて、いろいろな味のおもちを作っていました。何味かというと…前日食べたばかりのおもちと同じ、きなこや小豆。さら砂や小石を使って、丸めたおもち(お団子)に“味付け”していました。

おもちが出来上がってくると、お客さんが座るためのベンチを運んできたり、呼び込みをしたり、お客さんに注文を取ったり、とテキパキ働く姿がありました。

今までのお店屋さんごっこの経験が、こうして活かしているのだなあと、嬉しくなりました。

さて、お客さんで来てくれた年少さん。その中に、納豆もちを注文した子がいました。実はその年少さん、もちつき当日に描いた絵も、納豆もち。

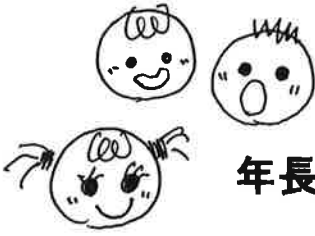
それほど、好きなんですね。

このように、行事で経験したことがすぐに遊びに反映されるのは、とても嬉しいことです。それだけ、子どもたちの心に残っているのだなあと感じます。(もちろん、行事だけでなく、日々の生活も大切にしていきたいと思いますが…)

これからも、どんな遊びが始まるか、楽しみです。遊ぼうの日には、おうちの方も、子どもたちと一緒に遊びを満喫してください♪

(Kumi)





## 年長あつまり



—いろいろ話し合ってます—

年長児が集まっての話し合い、今まで何回も繰り返してきました。振り返ってみると初めは“年長さんになって やってみたいこと”でした。その後キャンプに向かっていく中で、生活に必要なことについて話し合いました。2学期には運動会やバザー、クリスマスについても話し合ってきました。そのなかで一人ひとりが自分の言葉で、思いや意見を表現できるようになってきたように思います。

さて3学期に入り、子ども達はクリスマス献金の送り先について話し合いました。

「地震とかで困っている人に送るのは？」

「貧しい国の人には？」

「台風とかで家が流されちゃった人もいいんじゃない？」

「病気の人とか？」

etc.

いろいろな意見が出るなかで、「貧しい国って何？」と質問が出て、どう説明しようか戸惑いました。丁度、持っていた資料の中に海外のゴミ山に立つ裸足の少女の写真があったので、それを見ながら説明することにしました。子ども達は、恵まれた環境に居ることに気づいたようです。様々な状況下にある人たちのことを知り、考える良い機会になりました。

さて12月にお捧げしたクリスマス献金は、子ども達の意見をもとに様々な団体を通して送らせていただきます。

御心にかないますように・・・

(まさえ)





# ☆大森保育園の年長さんと交流会をしました～！！☆



1/22（金）大森保育園の年長さんが、金城学院幼稚園の年長さんとドッジボール大会をしたいと幼稚園に遊びに来てくれました！

遊戯室でご対面したのですが、大森保育園の年長さんは体の大きい子が多く、その姿を見て中には緊張している年長さんもいました（笑）少しでも仲良くなってもらえるようにと、大森保育園の子とそれぞれペアになり、ふれあい遊びやジャンケンゲームをしました。一緒にゲームをしていく中で緊張もほぐれ、いつもの子ども達の姿に戻っていました。中には近所のお友だちがいて「知ってる子がいる！」と嬉しそうに話している子もいました。

その後少しの時間でしたが、園庭やお部屋でそれぞれ遊びました。そしていよいよドッジボール大会！！いつもドッジボールをしている子は緊張しているのか、力が入りすぎてしまいなかなか普段の力を発揮できませんでした。一方、大森保育園の子はどの子も日頃からよくドッジボールをしているのか、ボールを投げるスピードも受けることもとても慣れていました。こちらはボールの取り合いの度に「最初はグー、ジャンケンポン」と毎回のようにジャンケンをしている為、その間に逃げられてしまい……。でも普段あまりボールを取らない子が積極的にボールを取りにいき嬉しい姿でした。

大森保育園の子が帰った後「ドッジボール大会はどうだった？」と聞くと「楽しかった～！！」と笑顔の子ども達。中にはいつもの力が出せず悔しい表情をしていた子もいましたが、みんな「またやりたい～！」「今度は大森保育園に行きたい！！」などの声があがり、子ども達にとって大森保育園さんとの交流会は得るものがたくさんあったと思いました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、このような機会があればまた是非交流したいと思います。（AK<sup>レ</sup>）

